

2024 年度 農福推進 Go !

五十嵐理事長

2024 年 4 月中旬となりました。4 月 1 日には辞令交付式を行い、17 名の職員に各々辞令を交付し、私達の仲間入りをしました。今年は桜の花の開花が少し、ずれて今当法人の敷地内の桜が満開であります。

さて、私の家に鉢植えのぶどうが一本ありますが、昨秋に枯れてしまったと思っていましたが、見事に芽吹いて復活しました。当然、畑のメイヴも利用者さんたちが中心となって手入れが始まっています。昨年は未だ植えたばかりでぶどう酒も本当に試飲用しかできなかったのですが、今年こそはと、皆張り切っています。また、お借りした畑で小麦を栽培していますが、これももう穂が出だし収穫が楽しみになってきました。更に自前の畑の野菜たちも、多くの職員、利用者さんたちが購入して大変喜ばれています。

私たちの法人農福連携もいよいよ本格化してまいりました。恵まれた環境の中で畑仕事をやることは、非常に健康的で利用者さんたちも嬉々として作業を行っています。

地域の皆様方の見守りを受けながら、今年も一丸となって頑張っていこうと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

一杉部門統括

2024 年度がスタートし、新たなチャレンジ活動として神奈川県が今年度から導入を目指している「都市型ユニバーサル農園」の運営に参加する予定となっております。

この取り組みの目的は、共生社会の実現に向けて、「障がい者」、「高齢者」、「困難を抱える若者」などが、参加できる「居場所づくり」と、農福連携を通じた共生社会の意識づくりにあります。

光友会が推進している農福連携により、地域の農家の方々のご協力も頂きながら、多くの働く場の確保と、そこから生産され、販売につながる仕組みができつつあります。こうした取り組みにより、色々な障害を持たれた方々の働く場所の確保が整ってまいりました。

今年度は、そうした取り組みをさらにブラッシュアップし、ユニバーサル農園としての役割も、地域貢献活動の一環として取り組んでまいります。

今年度も地域のご協力を頂きながら、社会福祉の充実に向けて取り組んでまいりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

農作業に係る方針

4月から農福推進室部長に就任いたしました中野健士です。一言ご挨拶申し上げます。



現在、露地栽培で季節の野菜作りと目の前の田んぼにて「はるみ」米を利用者さんと共に作っています。

はるみ米ですが、神奈川県生まれの品種になり、「甘みがあってもっちりとしている」「冷めても味が落ちないので、おにぎりにしても美味しい」お米になります。また神奈川県は全国でも1, 2位を争うほど農地が「狭い」県になります。これからの10年20年後の未来でも安全でおいしい食べ物を沢山作り、この瀬郷の地で続け利用者さんの笑顔が絶えず、人の集まる場所を目指していきたいと思えます。

農福連携マルシェ in 関東@丸の内 KITTE ビルに出店

1月30日(火)に農福連携マルシェ in 関東(主催:株式会社農都共生総合研究所)が丸の内 KITTE ビルで開催され、関東地区の社会福祉法人など16団体が出店しました。



【マルシェの入口】



【光友会の売り場】

神奈川県代表で光友会も参加の依頼を受け、また場所も東京駅ということもあり、張り切って参加しまし



【政務官とお話】



【ボランティアさんも応援】

た。商品も、光友会のお米、菓子パン各種、かわうそサブレ、クッキー、大根、さつまいもに加えて、日ごろ地域でお世話になっている農家さんからトマト、ほうれん草、キャベツ、ブロッコリー、落花生を調達して販売しま

した。11時から19時30分と長丁場でしたが、約100名のお客様に購入していただきほぼ完売となりました。行政からは、高橋光男農林水産大臣政務官も視察に来られ、ご挨拶させていただきました。同じ神奈川県からは「湘南みかんパン」の進和学園様や栃木県からはココ・ファーム・ワイナリー様などが出店されており、お互いに交流が深まる場となりました。

ブドウ畑で利用者さん活躍！

剪定作業始まる。

1月に入ると、ブドウの手入れが始まります。まずは枝の剪定作業。



【剪定の作業指導を受ける】

剪定作業は、昨年伸びたたくさん枝の中から、今年、実をつけさせる枝(結果母枝)を選ぶという重要な作業。農福推進室の清水進職員はこの作業のプロ。神奈川ワークショップの金子職員とライフ湘南の前田職員が清水進職員から指導を受けました。

剪定の判断は難しく、実際に作業しながら学びます。

剪定の良し悪しで夏の実りに影響大ですので責任重大

です。結果は、ブドウを収穫しワインにならないとわかりませんので、お楽しみです。



【剪定してみる】



【剪定にトライ】

誘引作業

3月に入ると、剪定作業につづき、誘引作業が始まります。誘引作業は、剪定で選んだ

結果母枝を誘引線に沿って直角に曲げ、麻ひもで固定する作業です。利用者さんの力を借りて行いました。

「直角曲げ」は勇気がある作業で、遠慮しないでしっかり曲げる必要があります。でも折ってはいけませんよ！

二人一組でチームを組み、ひもをカットする係と誘引する係に分かれて効率アップしました。利用者さんのチームプレーが良かったです。



【直角曲げに挑戦】



【麻ひも担当】



【一人が枝を押さえ、一人が麻ひもで結ぶ】



新たなブドウ苗の植樹

今年から新たにブドウ用の畑を2反強お借りすることになりました。



【二人でドリルで穴あけ】

早速3月にブドウ苗を植えました。利用者さんの力をお借りして、170本を植えました。

まず、穴位置を決めておいてドリルで穴を開けます。ドリルは重いので二人がかりで行います。

苗は、去年の剪定枝から作り、1年間苗畑で育てたものを使用しました。基準線の沿って、皆で一斉に植えました。無事に大きく育つように水をたっぷり与えます。



【一列に並んで苗を植えます】



【水はたっぷり与えます】

小麦畑の様子はどうかな？



【雪の小麦畑】

新春号でお伝えしましたように、今年は製パン用小麦を育てています。麦踏をしたり病気の防除をしたりして夏の収穫を目指しています。



【畔を整える】



【しっかり育つ小麦の穂】

編集後記 今年にはワイン用ブドウのメイヴが植樹3年目となり、ワインを期待するところですが、販売するためには、酒類販売業免許を取得しなければならない。税務署様と仲良くなくては (Tachan)